

大阪・関西万博開催に向けた意見

御所属 関西広域連合委員 兵庫県知事 御名前 井戸 敏三 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

歴史上長きにわたり首都として日本を牽引してきた関西の魅力を発信する場として最大限活用。観光客の増大や地域経済の活性化を通じて、首都圏とともに日本を牽引する関西を創る。

● 世界中の高度人材を惹きつける“関西健康技術Power”の発信

神戸医療産業都市やWHO神戸センターなどの優れた医療・研究機関、国家基幹技術であるSACLA、Spring-8など世界的な研究基盤の集積を発信し、研究人材、産業の流入を期待。

● 世界中の若者・交流人を惹きつける“関西観光文化Power”の発信

日本の文化首都として育んできた伝統・芸術文化を発信し、国際交流人口の拡大を期待。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

健康長寿先進国・日本の優れた「基盤」「技術」「研究」を世界に発信し、人類社会が直面する課題への解決策を世界に示す。

- 日本が戦後一貫して取組んできた保健医療基盤（衛生面、防疫面、インフラ面等）の提供を通して、開発途上国の健康社会づくりに貢献。
- 世界に先んじて高齢社会を迎えた日本に蓄積されたノウハウ（社会保障制度、リハビリ技術、認知症対策、介護・リハビリロボットの導入）の提供を通して、今後、アジア諸国が直面する課題と対応策を提示
- 日本が先導する高度な遠隔治療技術や再生医療、遺伝子治療など最先端研究を通して、人類社会の医療技術の将来像を展望

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

● 関西パビリオン（関西広域統一テーマ館）の設置

①世界レベルのライフサイエンス分野の大学、企業、研究機関が集積する関西の強み、②関西の厚みのある歴史や文化、多様な地域の魅力を発信する。

愛知万博の際に中部圏9県が共同でパビリオンを設置した事例も参考にどのような取り組みができるのか検討していきたい。VR技術や自動運転車など先端技術の体験型を基本に、若年層の好奇心を満足させる内容とする。

- 関西各府県へのサテライト会場の設置

メイン会場の展示を実体験できるサテライト会場を設け、来場者に関西の魅力を体感して頂く。

(兵庫県コンテンツ例)

例：医療産業記念館（医療産業都市（ポートアイランド））

震災復興のリーディングプロジェクトとして成果が上がってきた医療産業都市で取り組む免疫療法等の研究成果について、一般市民の理解を深めるため、免疫細胞の最先端の知見を面白く学べる体験型パビリオンを整備（万博後も医療産業都市における恒久施設として残す前提で）

例：国生み神話館（淡路夢舞台）

世界中からやってくる観光客向けに、日本のルーツ（神話）を知ってもらうための劇場型施設を整備（仮設構築物を想定）。日本のルーツが淡路島であることや大和など神話の世界の地である関西を知ってもらうため、神話の世界を映像化し上演する。映像中で、実際に淡路に残る神話由来の史跡（伊弉諾神宮、松帆銅鐸、上立神岩など）の3D画像も紹介し、現地を見に行くツアーも開発

例：姫路伝統文化館（姫路市）

日本が誇る世界遺産姫路城を中心に、山岳仏教（圓教寺、一乗寺等）をはじめ、播磨の歴史文化を発信

- 海上交通の整備

- ・ 空港と各会場間でのシャトル便の運行

関空、神戸空港と夢洲を結ぶシャトル便（定期便）の運行

(課題)

万博期間限定の6か月程度の運航では採算がとれない（県内船舶関係者）

⇒ I R施設との恒久的なアクセスとして検討が必要。

- ・ 瀬戸内海クルーズ

海上アクセスと併せて、西洋人に人気の瀬戸内の島々の歴史文化・自然を巡るクルーズツアーを展開。

- 関西3空港のさらなる活用

万博に向けて拡大する航空需要を関西全体で取り込むために、関西圏域に存在する空港の積極活用を図る。

- 六甲山観光の再興

西洋人が避暑地として着目し、リゾート開発を進めた六甲山の魅力を改めて周知する。

4. そのほか、御自由に御意見を申し上げます。

以上